日本航空 OB 乗員
有志の会ニュース

2016. 2.14
No.16-005

HP：http://jalfltcrewob.web.fc2.com/
Mail：jalfltcrewob@gmail.com

安全で明るい JAL

原告団取り組み紹介

１．JAL・政府に ILO 勧告の履行を求める院内集会 詳細ビラ

日時：2 月 24 日（水）　12:00～13:30

場所：参議院議員会館 1 階　講堂

２．JAL は早期解決を決断せよ！！2.29 本社包囲大行動 詳細ビラ

日時：2 月 29 日（月）　18:30～　場所：JAL 本社前

３．JAL 本社前座り込み 詳細ビラ

日時：3 月 7 日～11 日　11：00～16：00　場所：JAL 本社前(2F スカイウォーク)

１ 月２９日
三件のエンジン故障

２０１５年１月２９日に三件のエンジン故障が集中しました。

１）B７７７：福岡空港離陸の際にエンジン火災により「リジェクトテイクオフ（離陸中止）」
２）B７８７：バンクバー発成田行きエンジンオイル漏れでエンジンを停止、ワンエンジンで成田に緊急着陸
３）B７３７：整備点検中に不具合を発見しエンジン交換(詳細調査中)

２０１５年１２月２９日には、ホーチミン行Ｂ７８７が奄美大島上空でエンジンオイル漏れによりエンジン停止し、関空に緊急着陸したばかりです。原因は、調査中との事ですが、集中して発生している事態に着目する必要があるでしょう。

日本航空では、現在二つのエンジンの航空機ばかりです。この航空機が一つのエンジンになるという事は緊急事態です。個々の原因の詳細調査だけでなく、整備体制も含めた運航体制の緊急点検が必要な状況と言えるのではないでしょうか。

高稼働・人員不足がすべての職場に
安全運航に影響が

稲盛元会長が打ち出した、稲盛フィロソフィー教育は未だに続いているようですが、教育の中では「利益無くして安全なし」「安全のことを言うなら一兆円以上の内部留保が出来てから」などの経営発言が横行したままです。

連続事故の原因・背景と指摘された分裂労務政策時代と何ら変わっていない「自由に物が言えない暗い職場」「物言えば唇寒しの職場」を押し付ける経営姿勢が続いているそうです。

職場では、高稼働状況が続き「現場を大事にしない」との声が組合のアンケートに出る状況です。乗員の大量流失(JAL GRP で 2010 年 12 月 31 日以降 300 名以上)だけでなく、現場整備職も流失し、客室乗務員も毎年 600 人規模で JAL を退職している状況です。人員不足・経験者不足は明白であり、事業規模の維持・拡大に赤信号、インシデントが数多く報告され安全運航も危ぶまれています。

日本航空経営が整理解雇の解決を 5 年間も放置し、現在の高稼働状況を自らが作り出した経営の自縄自縛と言えます。

人員不足に落ちり事業計画も維持・拡大出来ず、利用者国民の生命財産を守るべき安全運航をも心配させる状況になった日本航空の経営責任が明確になったと言えるでしょう。

皆さん 2016 年度もカンパ支援・取り組み参加
宜しくお願い致します

今後の日程

＊宣伝行動・各地集会：私たちはあきらめない!!!

原告団 HP 日程参照

＊東京地裁：3 月 23 日(水)

マタハラ裁判　第四回口頭弁論

527 号法廷　10:00～　　報告集会予定あり

JAL CA マタニティハラスメント裁判ビラ

・詳細は、枠内をクリックして御覧下さい。